

【宮崎県納税貯蓄組合連合会会長賞】

税金で成り立つ社会

日南市立東郷中学校

三年 長田 百叶

私は税について調べ印象に残ったことが二つあります。そのことに對して私が考えたことなどを紹介したいと思います。一つ目は、「わたしたちと税のかかわり」についてです。資料では、私たち中学生が一日の生活の中でどのような物に税が使われているのかが記されていました。前から知っていたものもありましたが、警察や消防は税金で成り立っていることに驚きました。私たちの身の回りには、税金で成り立っているものであふれています。逆に税金を払わなくなりこの世の中に税というものが無くなってしまえば、私たちのあたりまえの生活はあたりまえでなくなってしまうとも言えるでしょう。このことから、税金の存在やそれを納めてくれている人々に改めてありがたみを感じました。また自分が大人になったら、まわりの人のために税金をきちんと納めようという目標もできました。

二つ目は、「地方の財政」についてです。資料では、熊本県・宮崎県・大分県・鹿児島県の四つの県の、歳入と歳出があてられているものの割合が記された円グラフがありました。これらのグラフを比較して気づいたことがあります。それは、宮崎県の歳入と歳出のそれぞれの総額が、他の三つの県よりも少ないことです。調べてみると、他の県よりも経済規模が小さいこと、人口減少が続いており、高齢化率が高いことが主な原因だそうです。今でできたような、子どもの数が減少し高齢者の数が増えることを少子高齢化と言いますがそれはこれからの社会にとって重要な課題となっています。日本人の平均寿命は、令和五年度で、男性は約八十一歳、女性は約八十七歳に達しています。このような急速な寿命の伸びが、社会の高齢化を進めています。一方で、将来の働き手となる子どもの出生率は、急激に下がっています。高齢者が急に増える反面、年少者が減るという現象は、将来の社会に向けて大きな問題を投げかけています。私たちはこのような問題が起きていることを理解して、改善策を考え地域の活性化につなげていくことが大切だと思います。

最後に、私たちは税金から成り立っているものであふれる社会で生活しているからこそ、税金をしっかりと納めるべきだと思います。これから、税金の仕組みがどんどん変化していくとしても、自分が社会をつくっていることを自覚したり税金を納めてくれている人々に感謝して、税金とうまく関わっていききたいです。